

西肥留遺跡（第2次）発掘調査 現地説明会資料

2005年2月6日 三重県埋蔵文化財センター

- 1 遺跡名 にしひる 西肥留遺跡（第2次発掘調査）
- 2 所在地 松阪市肥留町
- 3 調査面積 2,100㎡（うち下層 1,050㎡）
- 4 原因事業名 平成16年度（一）嬭野津線地方特定道路整備事業
- 5 調査主体 三重県教育委員会
- 6 調査担当 三重県埋蔵文化財センター
技師 新名 強 技術補助員 浅生卓司
- 7 委託先 B地区 東海興業株式会社
C地区 昴工房株式会社



C地区全景（北から）...竪穴住居が密集しています。

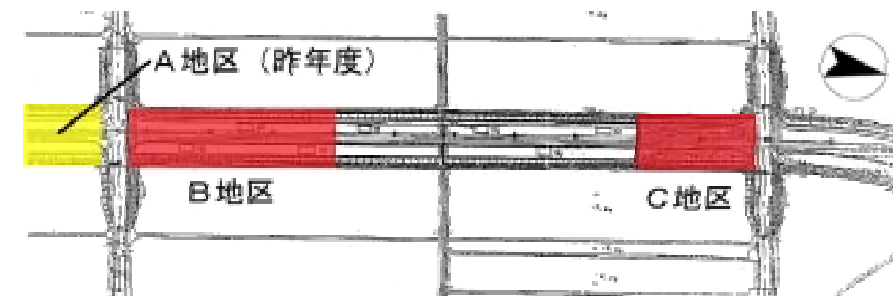
1. はじめに

西肥留遺跡のある旧三雲町は、雲出川の右岸に広がる低地部にあります。この一面に広がる田園地帯の下にはたくさんの遺跡が眠っています。筋違遺跡では弥生時代前期の水田や畑の跡が見つかっており、小野江甚目遺跡では2基の古墳が見つかり、馬形埴輪や円筒埴輪が出土しました。松本権現前遺跡では古墳時代前期や中世前期の集落跡が見ついています。また、雲出川を隔てた雲出島貫遺跡は、縄文時代晩期から近世に至る複合遺跡で、古墳時代前期の環濠集落や水田跡、中世前期の居館跡などがみついています。このように、雲出川の下流域には多くの遺跡が存在しています。

昨年度に行われた西肥留遺跡の1次調査では古墳時代後期の集落跡が見ついています。ここからは、井戸枠に転用された準構造船（丸木船を母体として側板等をつけて大きくした船）が見つかりました。西肥留遺跡の周辺には「小野江」や「小舟江」など港を示す地名が残っており、かつては海が近くまで迫っていたと考えられます。



遺跡位置図



調査区位置図

2. 調査の成果

今回の調査では、南側のB地区と北側のC地区の2ヶ所で調査を行いました。

【B地区】

B地区は土地が低いため、すぐに水が湧いてくる様な状態でした。ここからは、古墳時代から鎌倉時代にかけての遺構や遺物が見つかりました。

古墳時代前期

竪穴住居や井戸、溝などが見つかりました。井戸からは壺や高杯たかづきなどが多数出土しています。

古墳時代後期

竪穴住居や溝が見つかりました。

古代

溝S D 105の埋土から、奈良時代後半の素弁十二葉軒丸瓦そべんじゅうによるのきまるかわらが出土しました。

中世前期

2条の溝や落ち込み部分が見つかりました。溝は幅2～3mあり、方向を同じくしています。溝S D 106は、S D 105を掘り直したものです。

【C地区】

C地区は、B地区と比べてやや土地が高くなっており、地盤も安定していました。ここからは、弥生時代から鎌倉時代の遺構や遺物が見つかりました。

弥生時代後期～古墳時代前期

竪穴住居が30棟近く見つかりました。竪穴住居の多くには、貼り床や貼り壁の痕跡が残っていました。貼り壁とは壁の崩落を防ぐために、壁に粘土を混ぜたり板を貼ったりして補強したものです。貼り床とは地面に粘土などを貼って固めたもので、ここでは除湿効果を高めるためか、灰や焼土を混ぜていました。このあたりは低湿地ていしつちであるため、このような工夫をしていたのでしょう。

また竪穴住居S H 222からは多孔銅鏃たこうどうぞくが出土しました。多孔銅鏃とは鏃に複数の小さな孔がけられているもので、祭祀に用いられたと考えられています。主に濃尾平野から伊勢湾沿岸にかけて分布しており、三重県では4箇所目の発見となります。このほか、鞆羽口ふいごはくちも出土しており、鉄製品などの生産が行われていた可能性が考えられます。

古代

溝から多数の土師器はじきが出土しました。なにかお祭りをしていたのかもしれませんが。また、均整唐草文軒平瓦きんせいからくさまんのきひらかわらも出土しています。

中世前期

石組みの墓が見つかり、山茶碗やまぢゃわんや土師器はじき、刀子とうすが副葬されていました。

3 まとめ

今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけては竪穴住居が30棟以上見つかりました。特に微高地となるC地区では、竪穴住居がいくつも重なり合っで見つかり、何度も住居が建てられていたことがわかります。竪穴住居の多くは、貼り床や貼り壁など、低湿地に対する工夫が行われていました。また、竪穴住居の中から県内4箇所目となる多孔銅鏃が出土し、濃尾地域などと交流を行っていたことが窺えます。

また、古代瓦が出土したことから、近くに古代寺院の存在していた可能性が考えられます。これらの瓦は三重県では出土していない文様で、尾張低地部(海部郡・中島郡付近)の系統に類似しています。甚目寺じもくじ(愛知県海部郡甚目寺町)の縁起伝承では、「伊勢の甚目はだめ(松阪市甚目町)の漁師が黄金仏を引き揚げて祭ったのが始まり」と言われており、古来より尾張低地部との交流があったことを窺わせる資料として注目できます。

今回の調査では、弥生時代から鎌倉時代にかけての遺構や遺物を確認しました。中でも尾張地域と関わりのある遺物が確認され、西肥留遺跡の周辺では古来より伊勢湾を介した交流が盛んに行われていたと考えられます。



B地区全景(北から)



中世墓(C地区上層)



竖穴住居 S H 225 …住居の周りに柱穴が巡っています



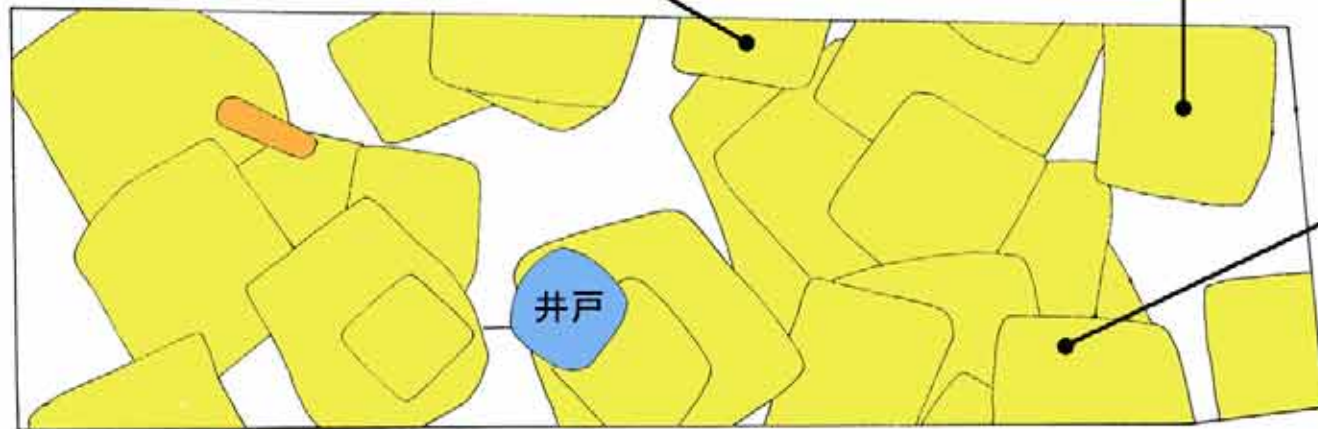
竖穴住居 S H 229 …弥生時代後期の土器が多数出土



素弁十二葉軒丸瓦
尾張地域低地部のものに
文様が似ています



均整唐草文軒平瓦
C地区から出土しました



C地区

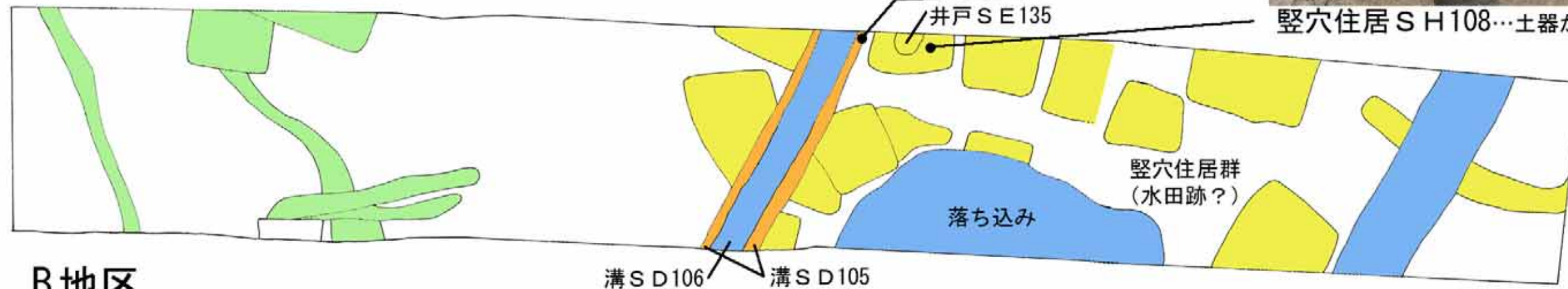
竖穴住居群



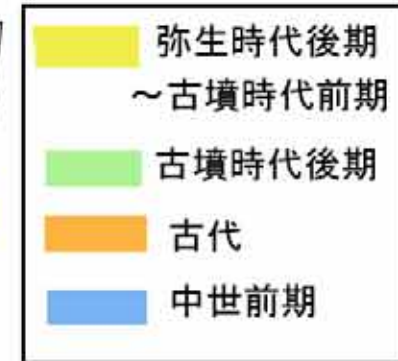
多孔銅鏡…竖穴住居 SH222 より出土
8つの孔があいています



竖穴住居 S H 108…土器が多数出土しています。



B地区



西肥留遺跡（第2次）遺構平面図（1/200）